

# 健康水

098(865)5162 seikatu@ryukyushimpo.co.jp

# はしか・風疹 流行防止

## 予防接種 県内でも助成

麻疹(はしか)、風疹が全国的に流行している。予防に最も有効なワクチン接種を進めようと、国や県は抗体がない人を対象とした予防接種の緊急対策事業を行う。風疹は成人男性を対象にすでに始まり、はしかも夏ごろには行われる予定だ。風疹は妊婦が感染すると胎児が障がいを持つ先天性風疹症候群、はしかは乳幼児が感染すると死亡したり重い後遺症が残ったりする危険性がある。県内では観光関連施設で感染が広がることも多く、県は「自分は関係ないと思わず予防接種を」と呼び掛けている。

### 麻疹(はしか)

はしかの感染力はインフルエンザなどに比べて格段に強い。原因となるウイルスのうち国内の土着株は根絶されているが、海外から持ち込まれるのを防ぐのは困難だ。県内では2018年3月、1人の外国人観光客から最終的に101人にまで広がった。三重県では今年、医薬品利用に慎重な宗教団体の研修会でワクチン未接種者を中心に集団感染が起き、同県の人口当たり報告者数は全国最多に。近隣県にも飛び火して患者を増やしている。沖縄県の担当者は「抗体のない人を探して感染が広がるような印象だ」と語る。

### 数十年かけて後遺症

今年には県内で4人(20日現在)、全国は486人(15日現在)が報告されている。県内では1998〜2001年の大流行で9人の乳幼児が亡くなった。「はしかで人工呼吸器につながれる子、亡くなる子どもを見つけた」。はしかゼロプロジェクト委員会の副委員長を務めるアワセ第一医院の浜端宏院長は振り返る。発症直後は通常の風邪と区別が付かない

発熱や鼻水といった症状だが、それらが治まりかけたところで39度程度の高熱と共に発疹が出る。肺炎などの合併症も起きやすく「生きた心地がしない」ともいわれるという。さらに、成人でも千人に1人の割合で脳炎を発症する。

また、近年注目されているのが亜急性硬化性全脳炎(SSPE)と呼ばれる合併症だ。発熱などの症状が治まった後もウイルスが体内に残り、数年後に発病して、ゆっくりと脳の炎症が進行する。発病すると神経症状が出て意識障害が起き、運動機

能も損なわれて寝たきりになる。根本的な治療法がないため進行を遅らせることしかできず、死に至る人も多い。県外の事例では、元気にしていた小学生が文字を書くのが下手になったり、よく転んだりするようになったため病院を受診するとそのまま入院。1カ月後にはベッドから起き上がれなくなり、半年後には知人の顔も識別できなくなったという。

SSPEは県内でも発生している。17年時点で少なくとも9人の入院患者があり、浜端院長の集計では17年までの40年間に24例あった。2歳未満でははしかにかかった人の発症が多く、最近の米国の報告では千人に1人程度だという。ワクチンを接種すればはしかを防ぐことができ、ワクチンが原因のSSPE事例はないことも確認されている。浜端院長は「子どもを守るには予防接種しかない」と力を込める。

### 県内、低い接種率

はしかの予防接種は現在、風疹との混合(MRワクチン)で、1〜2歳の第1期、小学校入学前1年間の第2期の2回、無料で受けられる。接種率が95%を超えると地域で流行しにくくなる

はしかの予防接種は現在、風疹との混合(MRワクチン)で、1〜2歳の第1期、小学校入学前1年間の第2期の2回、無料で受けられる。接種率が95%を超えると地域で流行しにくくなる

### 風疹

風疹はまだ国内で根絶されておらず、2013年には全国の患者が1万4千人を超えて大流行した。その後、減少したが18年からまた急増し、19年の累積患者数は全国で1486人(15日現在)、県内でも12人(9日現在)となった。

風疹はまだ国内で根絶されておらず、2013年には全国の患者が1万4千人を超えて大流行した。その後、減少したが18年からまた急増し、19年の累積患者数は全国で1486人(15日現在)、県内でも12人(9日現在)となった。

風疹は発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が出る。さらに妊婦が感染すると胎児に難聴、心疾患などが起きる先天性風疹症候群が発生する危険性がある。妊娠出産年齢の女性や妊婦の感染を防ぐには、男性を含む

日現在で40歳1カ月以上の層は、これまで接種の対象とされずワクチンを打つ機会がなかった。29〜40歳はその対象となったが、各自で医療機関などに

## 対策の鍵は男性、無料検査を

風疹は発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が出る。さらに妊婦が感染すると胎児に難聴、心疾患などが起きる先天性風疹症候群が発生する危険性がある。妊娠出産年齢の女性や妊婦の感染を防ぐには、男性を含む

日現在で40歳1カ月以上の層は、これまで接種の対象とされずワクチンを打つ機会がなかった。29〜40歳はその対象となったが、各自で医療機関などに

日現在で40歳1カ月以上の層は、これまで接種の対象とされずワクチンを打つ機会がなかった。29〜40歳はその対象となったが、各自で医療機関などに

日現在で40歳1カ月以上の層は、これまで接種の対象とされずワクチンを打つ機会がなかった。29〜40歳はその対象となったが、各自で医療機関などに



「はしかを防ぐにはワクチンしかない」と予防接種を強く呼び掛ける浜端宏院長＝沖縄市のアワセ第一医院

り、乳幼児や予防接種を打てない人を含めた全体が病気から守られる。県は先の大流行を機に01年、「はしかゼロプロジェクト」を発足させて患者の早期発見を徹底し、予防接種の対象を拡大するなど先進的に取り組んでいる。しかし県内の接種率は全国より低く、17年度に1期は93.6%、2期は88.9%と95%に届かず、抗体を持つ人を増やすことが急務だ。

### 県内での予防接種助成事業

実施主体	はしか	風疹
県	厚生労働省 市町村が クーポン配布	県、那覇市
対象	1970年4月2日～ 1999年4月1日 生まれの県民	1962年4月2日～ 1979年4月1日 生まれの男性
抗体検査	半額補助	無料
抗体検査	無料	無料
抗体検査	無料	無料
抗体がないと判明した人はMRワクチン接種	無料	無料
抗体がないと判明した人はMRワクチン接種	無料	自費
時期	2019年度夏以降に実施見込み	2019年度夏以降に実施見込み

行した。その後、減少したが18年からまた急増し、19年の累積患者数は全国で1486人(15日現在)、県内でも12人(9日現在)となった。

風疹は発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が出る。さらに妊婦が感染すると胎児に難聴、心疾患などが起きる先天性風疹症候群が発生する危険性がある。妊娠出産年齢の女性や妊婦の感染を防ぐには、男性を含む

日現在で40歳1カ月以上の層は、これまで接種の対象とされずワクチンを打つ機会がなかった。29〜40歳はその対象となったが、各自で医療機関などに

日現在で40歳1カ月以上の層は、これまで接種の対象とされずワクチンを打つ機会がなかった。29〜40歳はその対象となったが、各自で医療機関などに